

岩手県感染症週報

平成25年第34週(8月19日～8月25日)

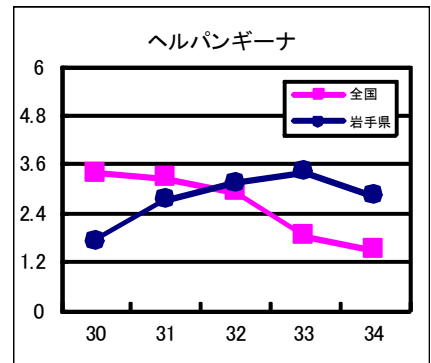
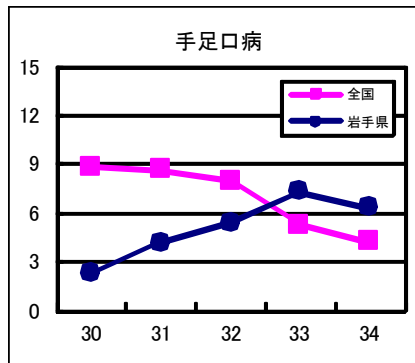
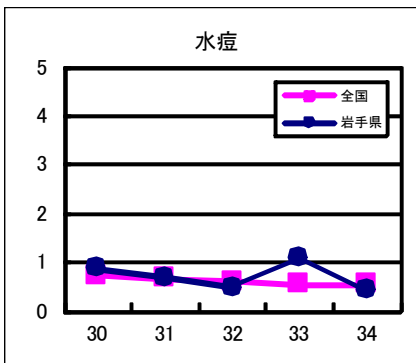
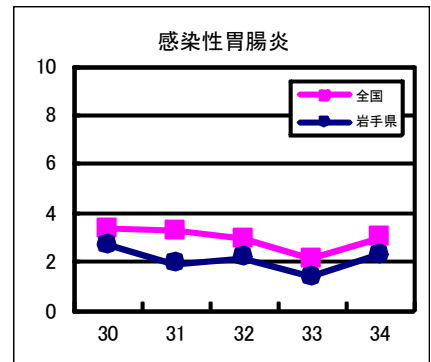
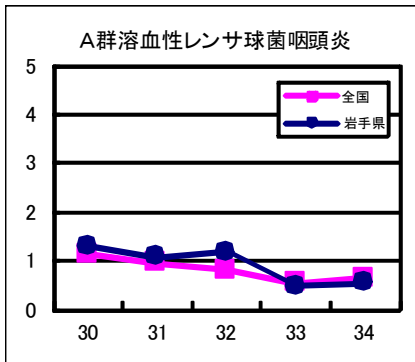
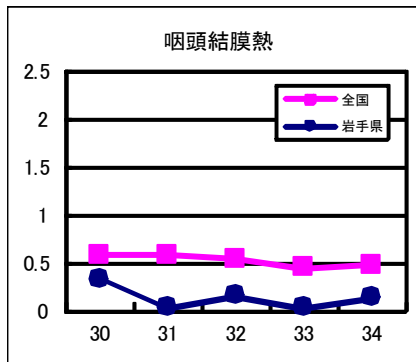
岩手県感染症情報センター

第34週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が、3例ありました(潜在性結核はありません)。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、7例の報告があり、今年これまでの患者数は72例となりました。年齢層別では、5歳以下が19例と約27%を占めています。全国では、保育園等における集団発生の増加がみられています。食中毒対策の徹底に加え、ヒトからヒトへ二次感染が起こりやすい疾患であることから、保育園等の集団生活の場に加え、家庭でも、二次感染を予防するため、石けんと流水による手洗いの励行が重要です。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の患者の報告が、宮古および釜石地区より1例ずつありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・手足口病は、前週より減少しましたが、県全体で3週連続して警報値(定点あたり患者数5人)を超えました。地区別では、盛岡市、県央、中部、奥州、一関および久慈地区の6地区で警報値を超え、流行の広がりをみせています。今後の発生の動向に注意が必要です。
 - ・ヘルパンギーナは、前週より減少しましたが、大船渡地区で警報値(同6人)を超えたほか、宮古および釜石地区でも多くなっています。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		30	31	32	33	34		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01		
RSウイルス感染症	岩手県	0.03	0	0.05	0.15	0	→	☆
	全国	0.26	0.35	0.43	0.43	0.41		
咽頭結膜熱	岩手県	0.33	0.03	0.15	0.03	0.13	→	
	全国	0.58	0.58	0.54	0.44	0.47		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.31	1.08	1.18	0.49	0.54	→	☆
	全国	1.13	0.95	0.8	0.55	0.64		
感染性胃腸炎	岩手県	2.69	1.9	2.15	1.36	2.26	→	☆
	全国	3.34	3.24	2.93	2.12	2.96		
水痘	岩手県	0.87	0.69	0.49	1.08	0.41	→	☆
	全国	0.73	0.66	0.6	0.55	0.54		
手足口病	岩手県	2.23	4.15	5.38	7.26	6.28	↗	☆☆☆
	全国	8.83	8.66	7.95	5.23	4.24		
伝染性紅斑	岩手県	0.05	0.1	0.26	0	0.13	→	☆
	全国	0.05	0.06	0.06	0.04	0.04		
突発性発疹	岩手県	0.59	0.51	0.54	0.33	0.74	→	☆
	全国	0.62	0.64	0.58	0.44	0.62		
百日咳	岩手県	0	0.03	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	1.72	2.72	3.13	3.41	2.82	→	☆☆
	全国	3.38	3.26	2.92	1.84	1.48		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.72	0.67	0.54	0.41	0.28	→	☆
	全国	0.28	0.28	0.22	0.22	0.22		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03		
流行性角結膜炎	岩手県	0.14	0.36	0.36	0.36	0.21	→	☆
	全国	0.69	0.68	0.74	0.61	0.73		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.08	0.1	0.09	0.09	0.09		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1	0.68	0.47	0.63	0.53	→	☆
	全国	0.42	0.39	0.38	0.45	0.39		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.05	0.03	0.03	0.03	0.03		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		30	31	32	33	34	累計	34	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者数	1 (1)	7 (1)	6 (2)	2 (0)	3 (0)	137 (44)	384	17214
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	92
	腸管出血性大腸菌感染症	14	5	1	4	7	72	225	2305
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	39
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	35
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	84
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	95
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	12
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	7
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	35
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	9
	つつが虫病	0	0	0	0	0	6	0	142
	デング熱	0	0	0	0	0	0	7	140
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	4	68
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	28
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	7
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2
	レジオネラ症	1	1	3	0	2	8	19	674
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	2	9
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		30	31	32	33	34		34	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	2	12	671
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	183
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	3	5	253
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	4	136
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	139
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	13	972
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	45
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	3	64
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	15
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	1	13	537
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	1	12
	梅毒	0	0	0	0	0	1	14	767
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	87
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	39
	風しん	0	0	0	0	0	7	68	13846
	麻しん	0	0	0	0	0	0	4	189
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

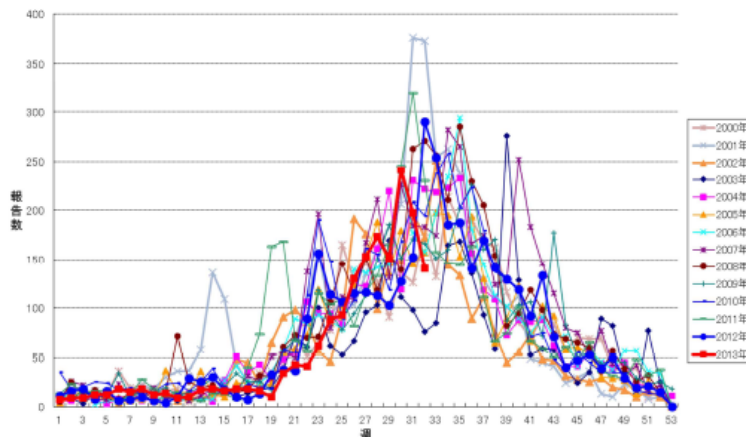
腸管出血性大腸菌感染症

全国の今年第32週までの累積報告数は、1,804例で、2000年以降では2003年、2000年について3番目に少ない報告数です。

全国の集団発生は、これまでに保育所における集団事例が10件報告されており例年より多くなっています。(2010年7事例、2011年4事例、2012年9事例)。保育所においては、日頃からの注意として、オムツ交換時の手洗い、便などの排泄物などで汚染される可能性がある場合は使い捨てのエプロンの使用、園児に対する手洗い指導の徹底が重要です。簡易プールの衛生管理にも注意が必要です。

厚生労働省 保育所における感染症対策ガイドラインに関するホームページ
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku02.pdf>

図1. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・週別発生状況 (2000～2013年第32週)



国立感染症研究所感染症疫学センター

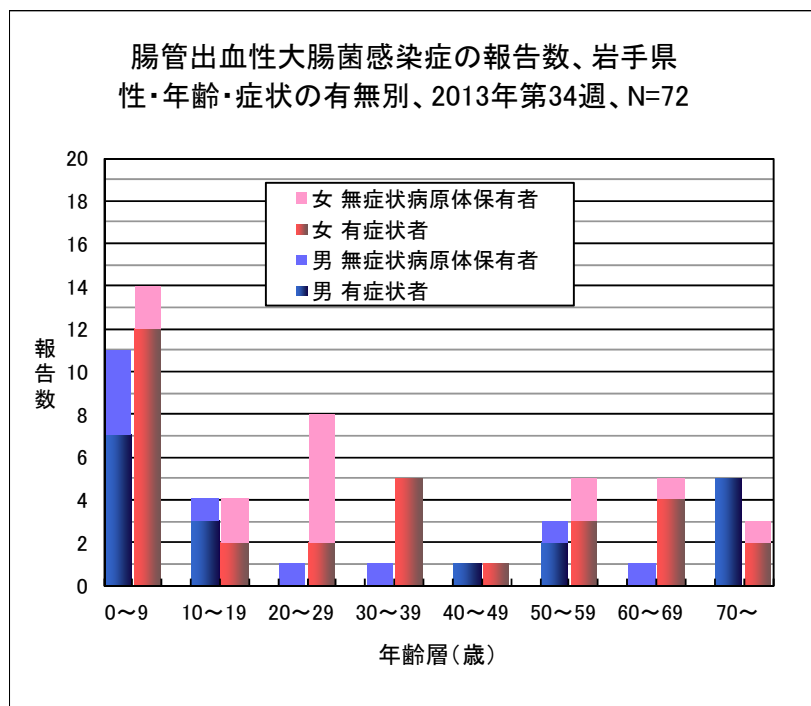
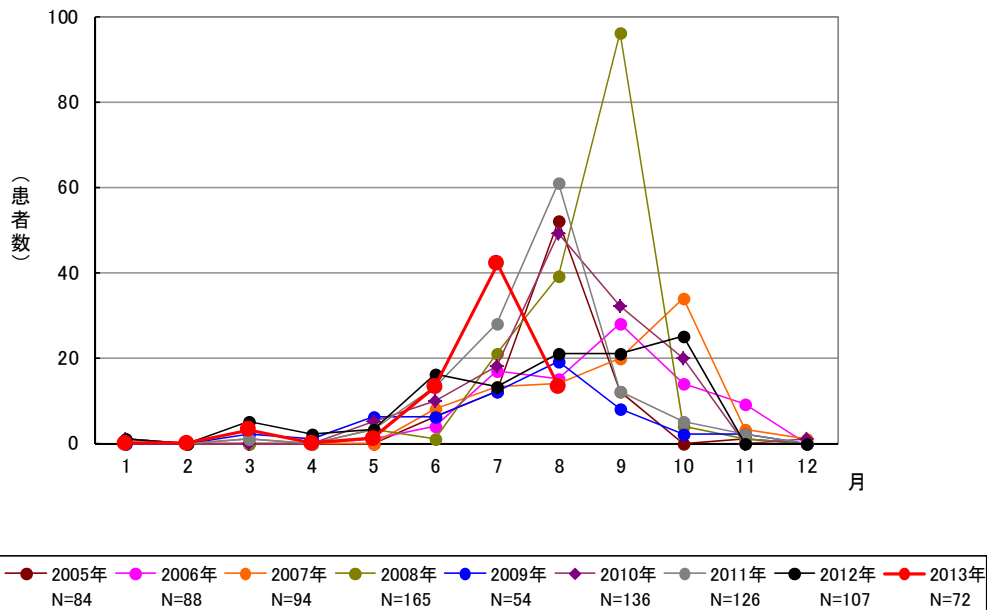
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症 (岩手県)

腸管出血性大腸菌感染症は、第34週までに72例の患者が報告されています。原因となった大腸菌はO157が38例、O26が27例で、その他が7例となっています。年齢層別では、0～9歳(25名)、70歳以上(9名)、20～29歳(9名)の順に多くなっています。

岩手県では、6月から10月に発生数が多く、予防には、食品を十分加熱するなど食中毒対策を徹底するとともに、ヒトからヒトへの二次感染を予防するために、石けんと流水を用いた手洗いの励行が重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数 (岩手県2005年～2013年)



今注目の感染症 (つづき)

手足口病とヘルパンギーナ

手足口病は、その名が示すとおり、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行がみられます。3～5日の潜伏期において口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することがあります。通常は数日で回復する予後良好な疾患ですが、まれに髄膜炎や脳症を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合は小児科の受診が必要です。

原因となるウイルスはコクサッキーA16 (CA16)、CA10、エンテロウイルス71 (EV71)などのエンテロウイルスです。

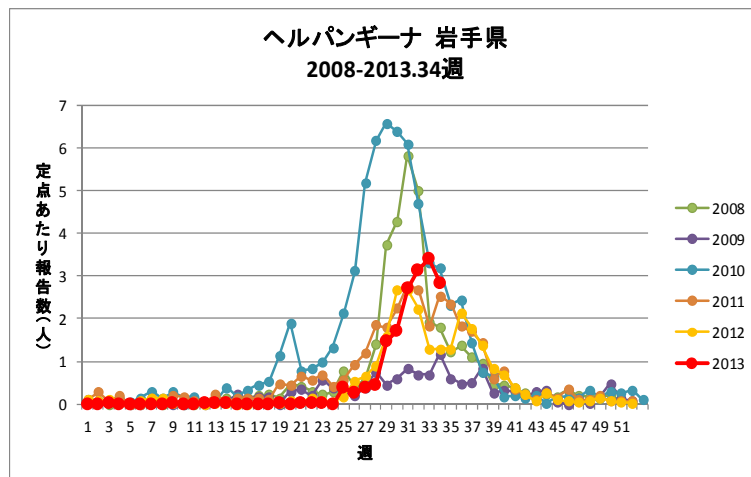
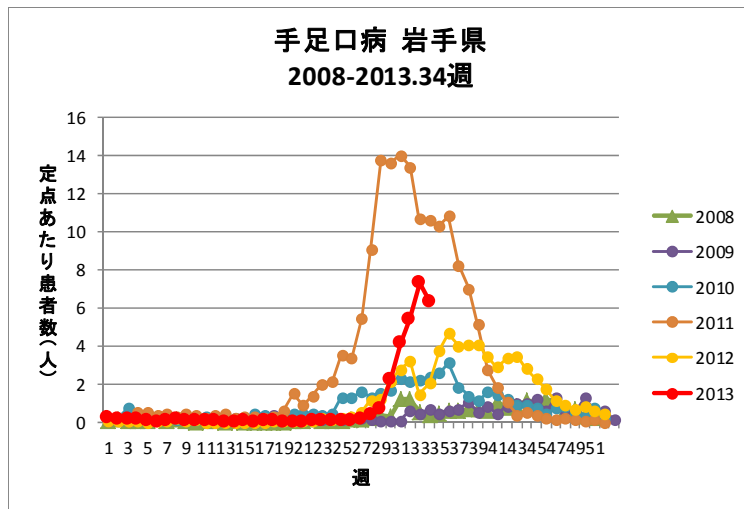
厚生労働省 手足口病に関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

ヘルパンギーナは、突然の発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹が特徴の夏季に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。原因となるウイルスはコクサッキーA群 (CA)が主な病因であり、CA4が最も多く、CA10、CA6などが続いています。

県内では7月末から、両疾患とも増加しています。両疾患とも感染経路は接触感染を含む経口感染と飛沫感染ですので、タオルの共用はしないこと、石けんと流水による手洗いと、適切な汚物の処理が重要です。

参考 国立感染症研究所 感染症疫学センター



今注目の感染症 (つづき)

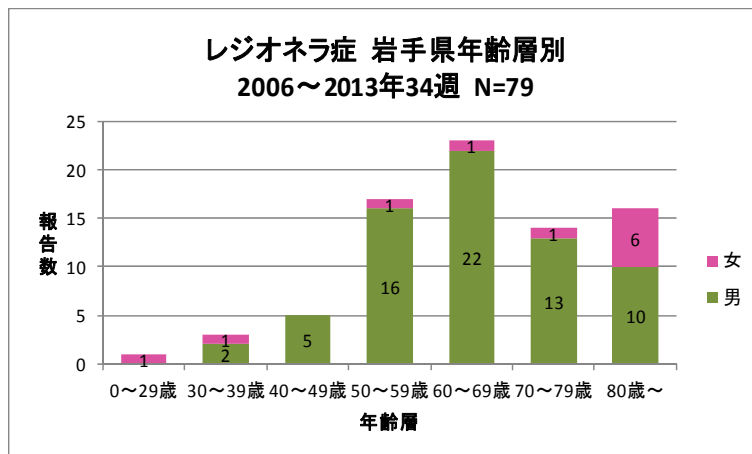
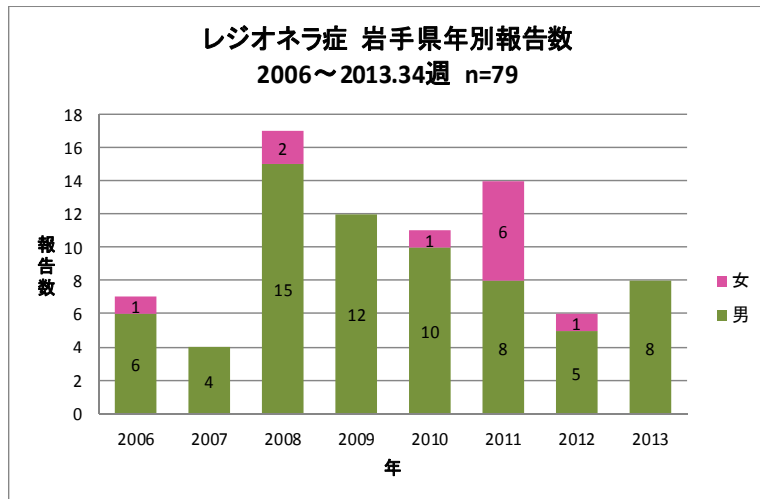
レジオネラ症

レジオネラ症は、細胞内寄生性のレジオネラ属菌による感染症です。菌は経気道感染して、肺胞マクロファージに侵入し増殖します。病型には肺炎型と感冒様のポンティアック熱型があります。レジオネラ肺炎は、他の細菌性の肺炎との区別が困難で、適切な抗菌薬の投与がない場合、急速に全症状が悪化する例があるので注意が必要です。治療には、キノロン系やマクロライド系の抗菌薬が有効です。

高齢者や新生児、免疫力低下をきたす疾患を有する方はリスクが高い。また、ヒトからヒトへの感染はありません。

岩手県では2006年から2013年第34週までに79例の報告がありました。男性に多く68例が男性でした。また、年齢層別では、30歳未満には少なく、60歳代が一番多く報告されています。

詳細は国立感染症研究所病原微生物検出状況IASR6月号
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-vol34/3614-iasr-400.html>



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

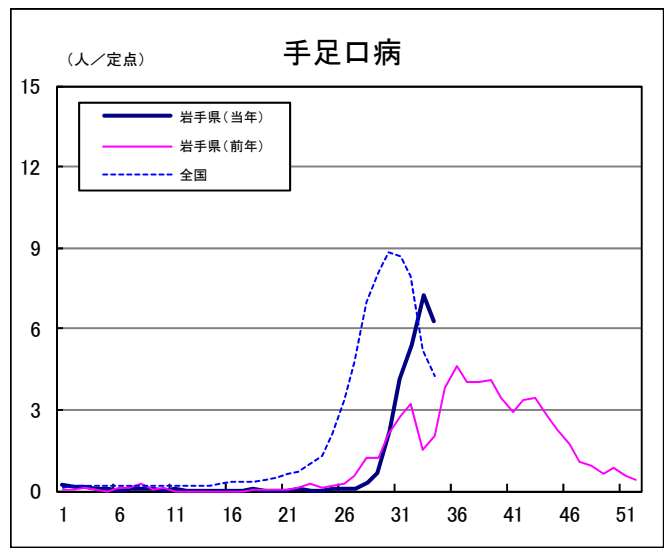
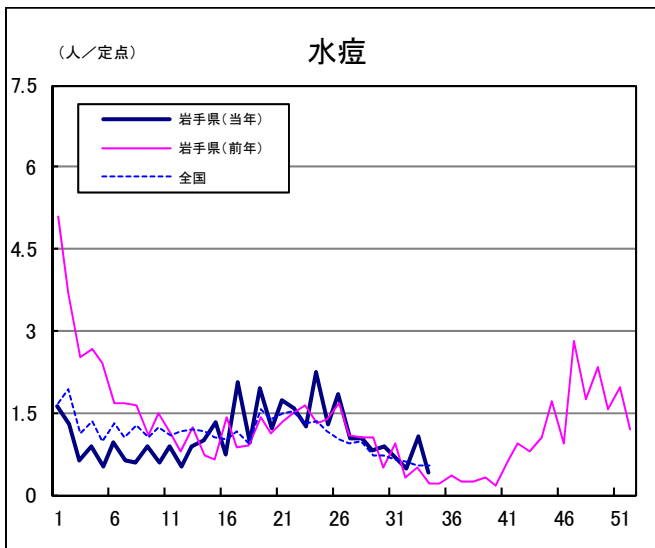
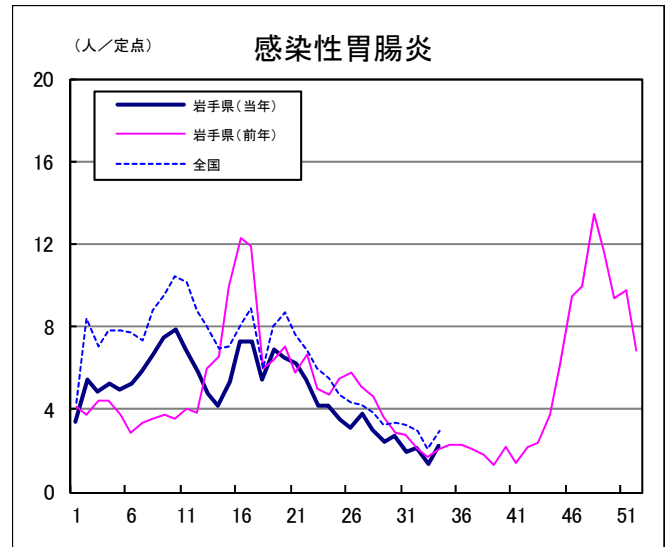
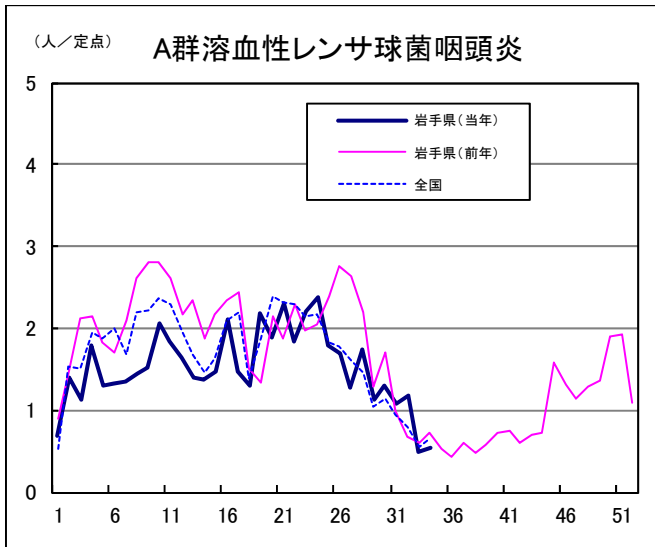
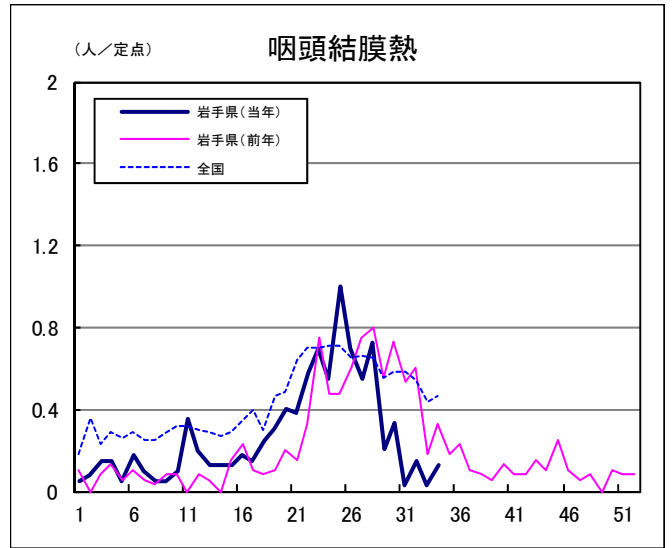
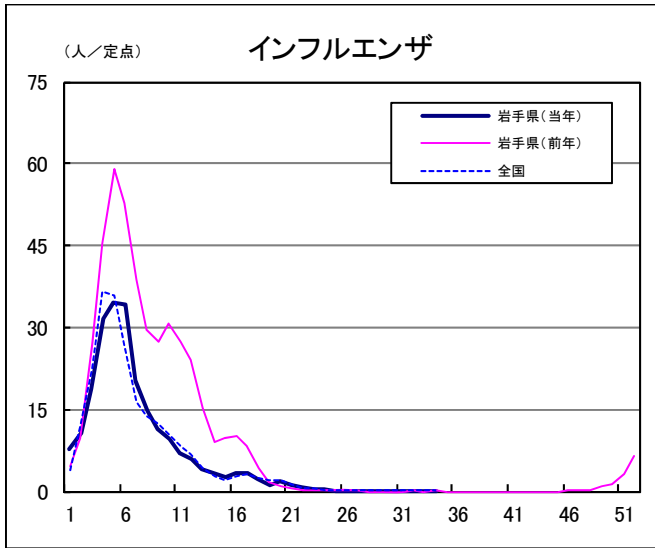
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

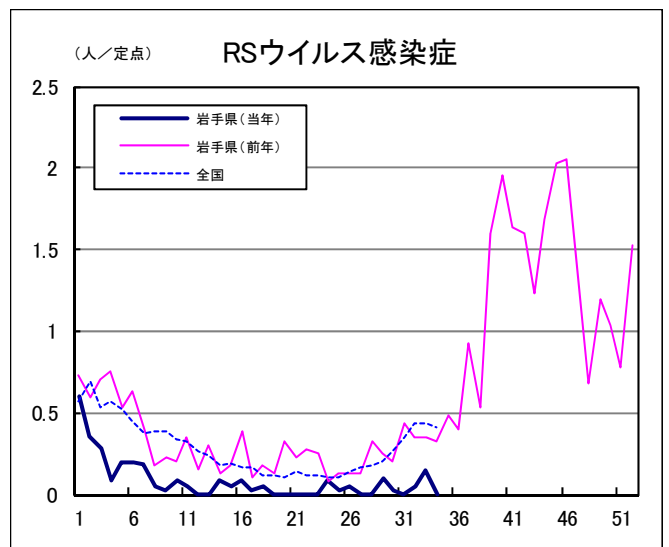
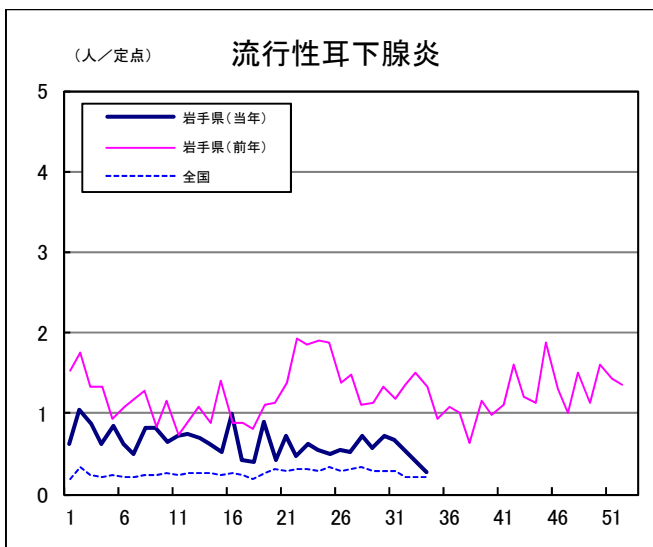
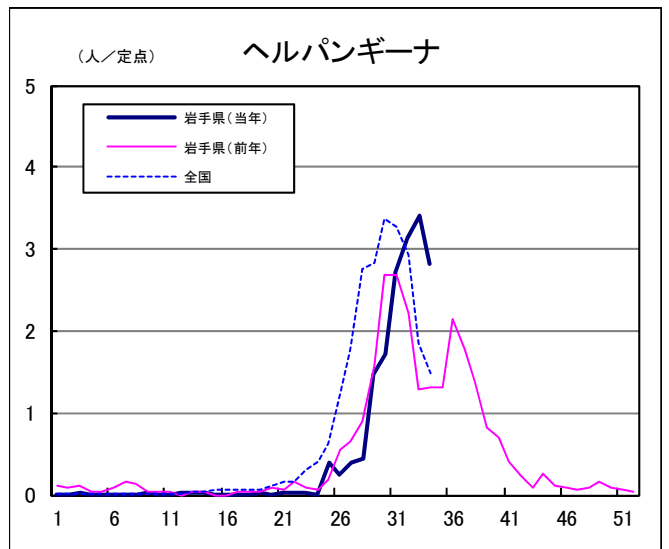
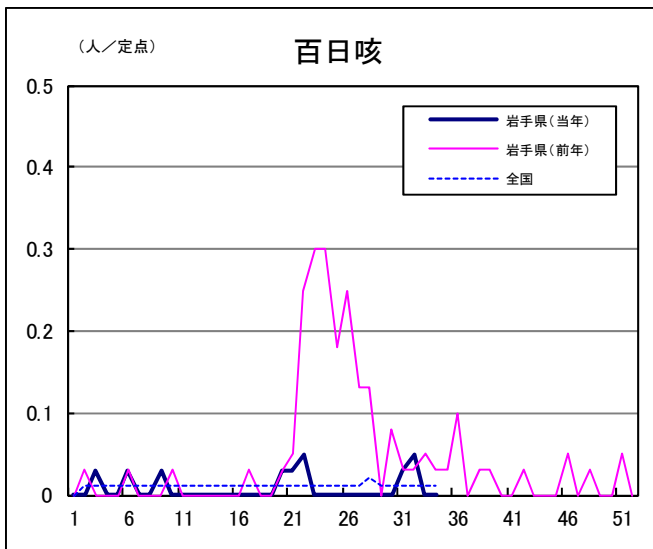
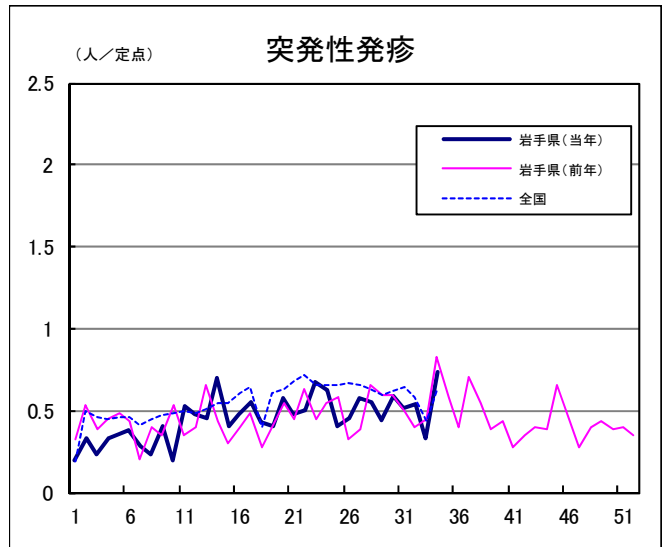
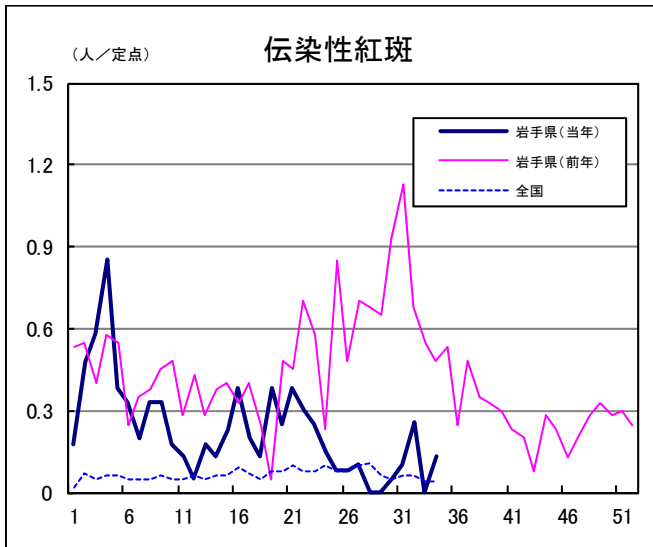
Q & A

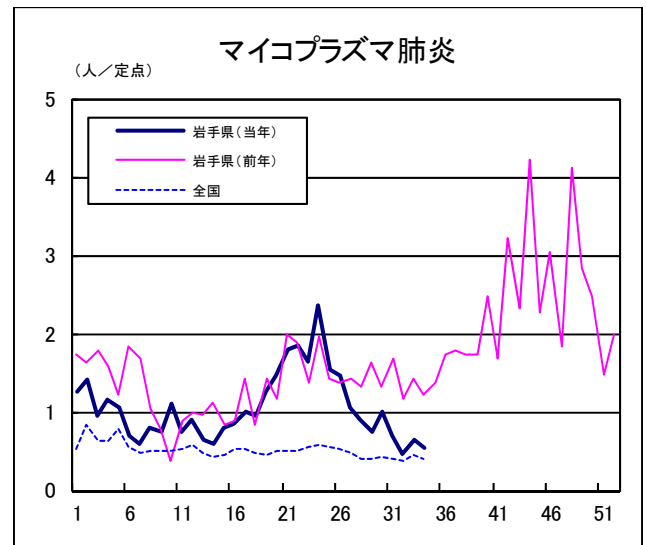
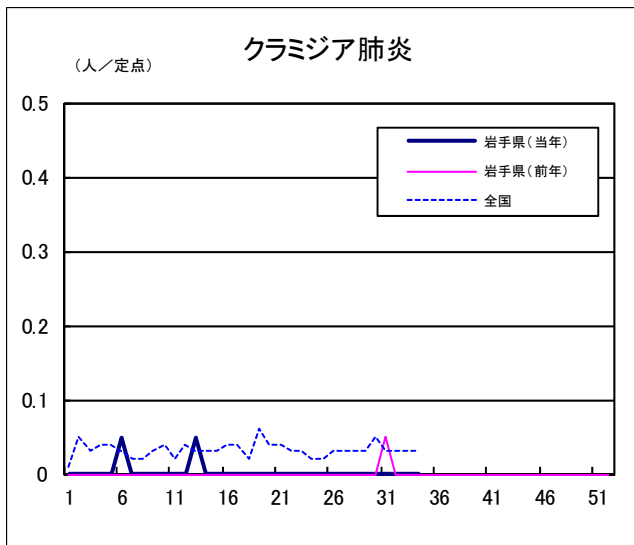
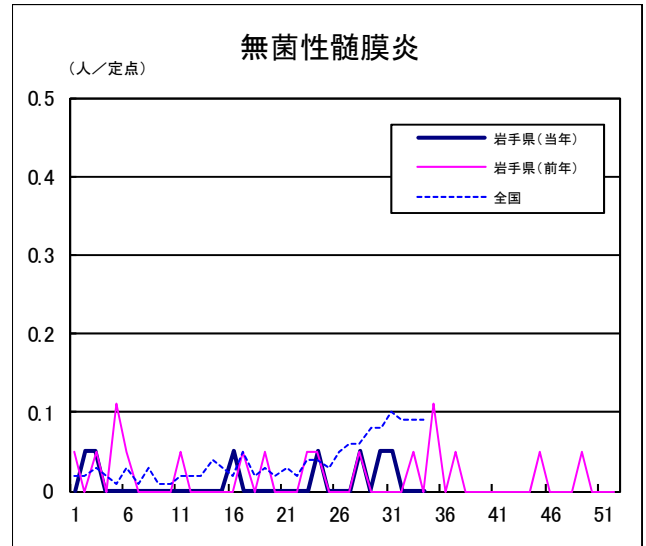
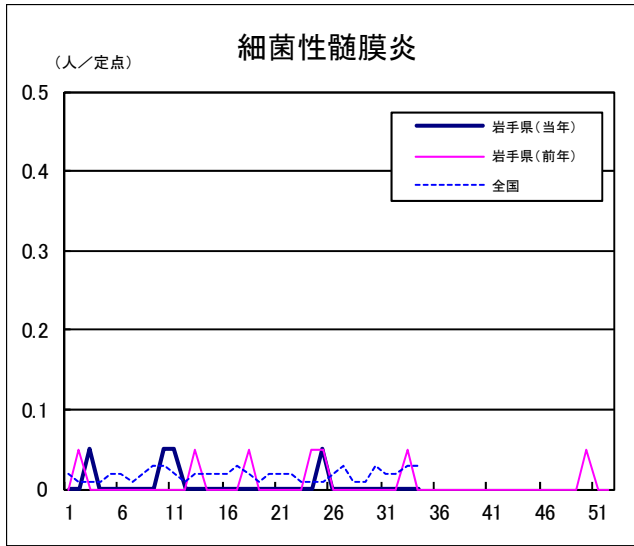
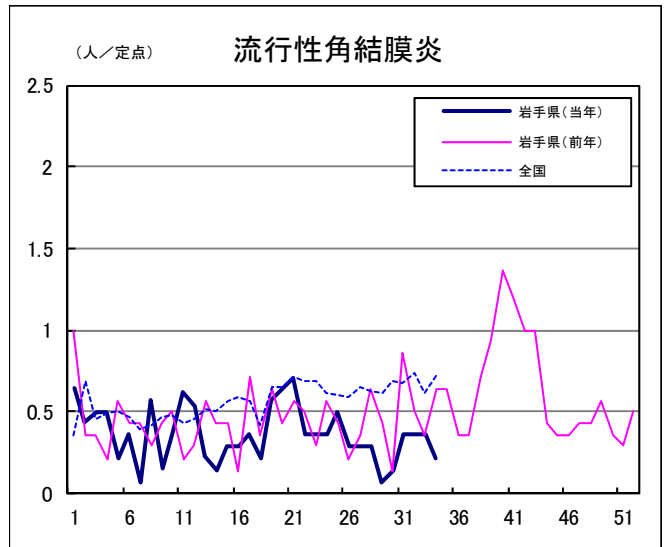
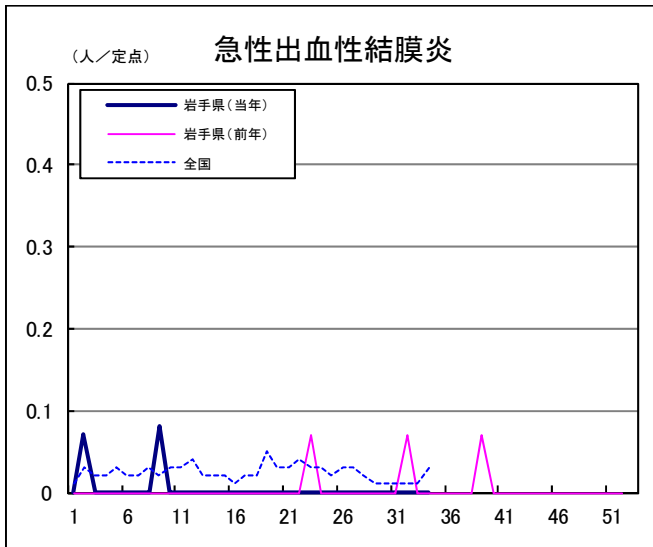
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref. iwate. jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	39	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	2	1	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成25年第34週 平成25年8月30日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>